

人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

2024
22号

音楽が生み出す
笑顔の輪



にしく市民活動支援センター
にしとも広場



左上から：山田職員、立木左絵さん、漆崎信二さん、勝俣敦祐さん、有澤博さん
左下から：松本センター長、三好正一さん、三好香織さん

西区街の名人・達人 音楽系団体座談会

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられ、感染防止対策やイベント開催制限などが実質的に撤廃されました。にしも広場での音楽イベントの再開を望む声も多く寄せられています。そこで、音楽分野で活躍している西区街の名人・達人の方々から、現在の活動や今後の展望について話を伺いました。

西区街の名人・達人に登録した きっかけと、活動内容について

有澤：にしも広場の前身の生涯学習センターの頃から25年間、「一座にし」として音楽ボランティア活動が続けています。昨年11月に西公会堂で「大うたごえ広場」というライブイベントを行い、200人以上の方が来場して大盛況でした。

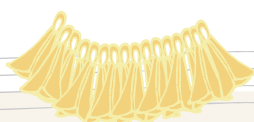
勝俣：「隊長ソウルバンド」という沖縄の三線を中心とした島唄バンドや、地元の小学校でエイサー太鼓を教えている、世界的に「隊長」と呼ばれています（笑）。地元を盛り上げるために、様々なイベントを開催していて、冬には平沼橋の桁下でクリスマスイベントも行っています。

漆崎：ボイストレーナーやシンガーソングライターとして仕事で音楽に関わっています。ボランティアを通して、自分の仕事を知ってもらい、音楽で新たな縁が生まれればと考えて、昨年、登録しました。今日は、にしも広場で活動している方々と出会いたく参加しました。

立木：オカリナの「横浜オカリナカンタービレ」と家族で行っているアンサンブルの「ツリーファミリー」の2つの団体で、2年前に登録しました。市内の公共施設や高齢者施設でコンサート活動をしています。西区に住み始めて30年経ちますが、子育ても落ち着いたので、地域貢献や音楽関係の方との交流の場をもちたいと考えています。

三好(香)：夫婦で「ミニッツ」としてライブハウスや全国のフェスで演奏をして、昨年、浅草の演芸場に音楽漫才でデビューもしました。県外での活動が多いですが、これからはにしも広場での活動の機会が増えると嬉しいです。

三好(正)：私は以前から弾き語りをしていましたが、6年前から妻と一緒に活動をしています。高齢者施設での活動も再開して、久しぶりの生演奏をととても喜んでくれて、音楽で笑顔になる活動を今後も続けていきたいと考えています。



生演奏が生み出す笑顔の輪

有澤：コロナも明けて、生で演奏をしていると、みんなが音楽と歌と笑いを待っていたと感じます。聴きに来た方に喜んでもらうのが一番で、ステージに立つからには、しっかり準備をして、きちんとした演奏をみなさんに届けたいと考えています。

勝俣：屋外で音楽イベントをやると、近隣に住んでいる方から「うるさい」と言われることがあります。最初は喧嘩腰で怒鳴り込んできた人も、話を聞くうちに打ち解けて、今では一緒にイベントを手伝ってくれたりしています。一人でいると音楽が騒音に感じて、一緒に輪に入ってみると音楽の楽しさが分かるのだと思います。

漆崎：路上ライブでは、より大きな音で被せて勝負する人もいますが、私は音が干渉しない静かな場所で、近くの人に聴き入ってもらう弾き語りをしています。みなさんの活動に混ぜてもらって、自分の音楽が好きな人だけでなく、純粋に音楽を楽しみたい人と接点を持ちたいと考えています。

三好(香)：コロナで、公共の場所での活動やイベントは軒並み中止になりましたが、地方やライブハウスでは、制約のある中でも音楽の火を絶やさないように、みんなで協力しながら可能性を模索していて、逆境だからこそ音楽の輪が広がったと感じています。

立木：コロナでレッスンもオンラインになり、音楽と触れあう体験会も、ワークショップも、高齢者施設での演奏もできませんでした。これからは生の音楽や楽器に触れるワークショップを、にしも広場で企画してみたいですし、みなさんと一緒にイベントも行いたいと考えています。



「魅せる」演奏

三好(香)：ボランティアの音楽活動をしていると、「タダ」で当たり前という感覚の人に出会うことがあります。私たちは、ボランティアでも、練習を重ねて、機材を整えて、費用や手間暇をかけて、ステージを作っています。目に見えるモノと違って、音楽はかたちがないので、価値を理解されにくいと感じています。

有澤：プロとしてのギャランティーとは言わないけれど、ボランティアでも実費負担や気持ち程度の謝金は必要だと思います。私は年間10件程度の依頼を受けていますが、半分は交通費も出ないという話でお断りしています。でも、何とかお願いしたいと言われると、情に負けてしまうこともあります。

勝俣：イベントの出演依頼も、主催者は「出してあげる感」がありますね。私が主催するイベントでは、あちこちから協賛金を集めて、交通費程度でもミュージシャンに出すようにしています。

有澤：同じボランティアでも、初心者とミュージシャンとではレベルの違いがあります。タダだからと初心者の発表会を聞かされるのでは、お客さんはかわいそうだと思います。

三好(香)：発表会とコンサートの違いはとても大切だと思います。高齢者施設の方は、聞き手は素人だから違いが分からないと考えている人もいますが、年配の方は経験が豊富なので逆にシビアで、面白ければノリノリになるけど、つまらないと寝てしまう(笑)。

有澤：年配の方は若い頃に、ジャズやラテン、シャンソン、ウエスタン、ロックもビートルズも聞いていて、耳は肥えているので、生半可な演奏では喜んでもらえないですね。



漆崎：ボランティアの集まりで、発表会とコンサートの違いや、レベルをあげるための練習や機材のお話が出るとは思っていませんでした。みなさんのお話を伺いながら、自分がこれからボランティアとしてやることの方向性が見えてきた気がします。

三好(香)：全国のフェスは、オーディションを通った人たちが出演するので、出演することがステータスになり、音楽も一定のレベルが担保されます。応募したい、練習して一定のレベルに持っていきたい、というモチベーションが生まれると、もっと多くの人がレベルの高い生演奏を楽しめるようになると思っています。

有澤：ここにいるみなさんには、ぜひ「魅せる」演奏をして欲しいですね。

三好(正)：にしとも広場には、西区街の名人・達人の紹介の中で、ミュージシャンと音楽を聴く方との心地よいコーディネートをして欲しいと考えています。両者のギャップをなくして、音楽でみんなが幸せになる場を作っていって欲しいです。

上手さとは違うスキル

三好(香)：生演奏の魅力も大切だし、足を運んで観てもらうのだから、上手い演奏をして当たり前だけれども、聴き終えた後に「楽しかった」とか「幸せ」な気持ちを持ってもらうことは、上手さとは違うスキルが必要だと思っています。

有澤：新しい依頼が入ると、参加者の年齢構成、男女比、場所の特徴などを聞いて、プログラムを組み立て、そして、当然、練習もしっかりします。なので、間違いなく喜んでもらえて、演奏が終わった後は「また来て欲しい」という話になります。「名人・達人」の名前に恥じないよう一生懸命努力をしています。

三好(香)：西区街の名人・達人に登録している方がどのレベルなのかは、冊子に書かれた文字を読んだだけでは分からないですね。とつかストリートライブでは、登録時に全員がプロフィール動画を撮って、どんな演奏をするのかYouTubeで動画を見ることができます。

有澤：名人・達人の人たちが動画を撮って公開すると、メンバーのレベルアップにもつながりますね。

スキルを生かせるチームをつくる

三好(香)：最近、生演奏を聴いたことがある子どもが少ないと感じます。楽器離れもあり、自分で演奏する人も減ってきている。隣の川崎は音楽でまちづくりを進めているけれど、横浜は音楽フェスや路上ライブの機会が少ないですね。音楽に真剣に取り組んでいる人だけでなく、子どもたちが生の演奏に触れる機会として、西区で音楽フェスをやりたいと考えています。

勝俣：地域のイベントは様々な関係者を巻き込んでいくことが大切で、お互いに得意分野を出しあって、目標を達成するチームをつくる必要があります。立場の違う人とも、コミュニケーションを取ることが重要で、みんなが協力者になれば、反対する人もいなくなるし、異なる視点でプラスの意見も出てくるようになります。

三好(香)：目標を設定してプロジェクトチームを立ち上げれば、協力するメンバーは自然と集まります。私は機材の用意やMCができるし、みんなそれぞれノウハウを持っているので、実現のハードルはそれほど高くないと思います。

有澤：音楽だけでなく、多様なスキルを持った方にチームに入ってもらって、自身のスキルを生かして活躍できる場を作れば、参加したい人も増えていくと思います。

三好(香)：ライブハウスで活動しているような、地域と接点を持っていない方たちも、一歩踏み出して積極的にチームに参加して欲しいですね。

有澤：私も以前から、西区を「音楽のまち」にしたいと思っていましたが、そういう機運がなかなか出てこなかった。にしとも広場には、ぜひチームの結成を呼びかけて欲しいですね。





音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ

老人福祉施設・障害者施設でのコンサート活動

聞かせるだけの一方通行にならない「双方向コンサート」をモットーに活動しています。施設だけでなく、一般向けにも開催しています。活動の動画も掲載していますので、詳細はホームページをご覧ください。

<https://ichizanishi.sakura.ne.jp/>



非営利公益市民活動団体 隊長ソウルバンド

小学生へのエイサー太鼓指導、介護施設、県内外、地区・自治会・商店街など各地のイベント出演

子どもからお年寄りまで、イベントで一緒に踊り、太鼓をたたくなど、参加型ステージを披露します。



ミニッツ

フリートークとギター・オカリナ・鍵盤ハーモニカ伴奏に乗せた男女ボーカルによる歌謡曲等の演奏、参加型ライブ形式の演奏

音楽の素晴らしさを沢山の方々と共有することを目的に活動している夫婦ユニットです。聴きたい人、歌いたい人、笑いたい人…。色々なニーズに合わせたイベントで音楽の輪が広がる事を願っています。



ツリーファミリー

ピアノソロ・連弾やオカリナソロ・アンサンブル等のイベント・コンサート出演、ドイツの生活や音楽についてのトーク

アットホームな雰囲気、音楽を通して、皆様と共に心豊かに元気になる場をご提供できたら幸いです。ポップス、歌謡曲、クラシック、幼児から大人まで幅広くニーズに応じます。

tachikisae@gmail.com



漆崎 信二さん

ライブ活動、ボイストレーナー

音楽の楽しさを地域のみなさまと一緒に共有しながら、楽しめる活動がしたいと思っています。是非、気軽にお問い合わせください。

<https://www.urushimusic.com>

西区街の名人・達人

地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」とは、仕事や趣味で培った、自分の経験・知識・技術を活かして、地域のイベントや講座などで活動する、ボランティア人材登録制度です。コーディネートはにしとも広場にご相談ください。





登録団体インタビュー「子育て万歳サロン」

にしとも広場には、地域課題の解決や、趣味・特技を活かした活動をしている市民活動団体等が数多く登録しています。このページでは、登録団体の方にインタビューし、その活動を紹介します。

「子育て万歳サロン」は、未就学児とその親が身近な場所で気軽に集まり、仲間づくりができる「親子の居場所」です。代表の平林静子さんにお話を伺いました。

立ち上げの経緯 ～幼馴染に助けられて～

私は横浜市内の小学校で先生をしていて、定年後に戸塚区の福祉保健センターで4年間、教育相談員を務めました。そこで、保健師や乳幼児を持つ親と関わるうちに、子育ては乳幼児期から始まり、自分が向き合ってきた小学生はその延長線上ににいることに気づかされました。

そこで、乳幼児の子育てをもっと学びたくなり、3年間、学校に通って「子育てアドバイザー」の資格を取得し、そのご縁で、西区の依頼を受けて、2013年に「子育て万歳サロン」を立ち上げました。

運営には、企画の段階からずっと、地元の西杉町内会の、高齢者一人暮らし見守り事業「西杉ふれあいひまわり会」のメンバーが協力してくれています。

見つけるのに最後まで苦労した開催場所は、幼馴染でもある銭湯「萬歳湯」のご主人、高木さんが開店前の男湯の脱衣所を提供してくれました。

地域の顔の見える繋がりに助けられて、実現できた子育てサロンです。



平林静子さん

活動の内容 ～顔の見える、地域での子育て～

サロンは毎月第一金曜日に開催しています。

設立当初は「おふる屋さんの子育て万歳サロン」ということで、大変注目していただきました。コロナ禍で、「萬歳湯」から「にしとも広場」に場所は移りましたが、「ゆったりくつろいで過ごせる親子の居場所」であることに変わりはありません。

毎回、「地域の顔の見える繋がりのなかで、みんな子どもを育てたい」というスタッフと、ときには10組を超える親子が集まります。スタッフやお母さん同士で子育ての情報交換をしたり、子育てから離れたおしゃべりにも花が咲きます。

今後の展望 ～サロンを続けていくために～

地域の利用者さんが喜んでくれる限り、サロンは続けたいと考えていますが、スタッフも年を重ねています。

今は、「子育て万歳サロン」の名前を残したまま、メンバーの輪を広げ、多くの方に協力いただける新しいかたちでサロンを続けることを考えています。

乳幼児期からの顔の見える繋がりがあれば、子どもが成長してもこの地域で変わらず繋がっていきます。これこそが地域で子どもを育てることだと思っています。



萬歳湯外観



萬歳湯での様子



にしとも広場での様子

活動報告 団体交流会を開催しました

西区登録グループ・団体、西区街の名人・達人、地域づくり大学校の修了生の皆さんがつながりを創り深める交流の場として、2023年12月9日に団体交流会を開催しました。テーマは『活動を開く～チャンスに向けて踏み出す一歩～』です。



小暮達郎さん
(南ぬ風)

竹下淳子さん
(あけぼの会)

松本道雄さん
(プリリアみらいコミュニティ)

活動を開くきっかけ

3名の方々から、活動を開くきっかけとなったエピソードや、活動を続ける中で心の持ち方を話していただきました。

南ぬ風（ぱいぬかじ）の小暮さんからは、現在の音楽活動のきっかけと、その時の気持ちを話していただきました。「遠慮はブレーキ。とにかくやってみるしかない。やりたければやる!」という力強いメッセージが印象的でした。

あけぼの会の竹下さんからは、活動の仲間になってほしい方には、その場で声をかける、という決断の速さと、フットワークの良さ、そして、活動の中で一人ひとりの違いを見ることの大切さを教えていただきました。

プリリアみらいコミュニティの松本さんからは、設立の経緯と、支えあいに関係づくりのコツを話していただきました。無理なく参加できる「ゆるやか

なつながり」、「楽しい」をキーワードに黒子になってコミュニティを豊かにする活動事例を紹介していただきました。

エールを交換

参加者どうしが、「次の私の一歩」を発表し、グループ内でお互いに、応援メッセージを付箋に書いて交換しあいました。「やりたい気持ちが行動になる」「ひとりでもいいから広げる」「想いを語る」「幅広い声掛けで輪が広がる」など、これからの活動がより元気になる言葉とエールを交換しました。



新規登録「西区街の名人・達人」のご紹介



涌井 きよ子 さん
《着付》



STEAM 教育デザイナー
西田 俊章 さん
《STEAM 教育・ものづくり教育》



山本 珠代 さん
《日々の暮らしでココロとカラダとお財布に優しいセルフケア》



池端 裕 さん
《人生 100 年時代に向けたこれからの「金融リテラシー」》

(2023 年 7 月～2023 年 12 月登録)

お知らせ

こいのぼりを泳がせよう！



折り紙でかぶとをつかって、うろことして壁に貼っていきます。

みんなで、にしとも広場に、こいのぼりを泳がせよう！！

制作期間 2024年4月11日(木)～5月6日(月)

展示期間 2024年5月7日(火)～5月28日(火)

場 所 にしとも広場

参加方法 開館時間にいつでもお越しください



編集後記



座談会や登録団体のインタビューを通して、みなさんから、たくさんのパワーをいただきました。

中でも、音楽系団体の座談会で、訪問先での様子を伺い、出演する側と依頼する側の意識の違いを実感しました。

視点が変われば、ものの見え方は変わるので、もっと、活動している方々の生の声に耳を傾けて、現場の空気を肌で感じることを心がけようと思います。そして、同じ「チーム西区」の一員として、自分にできることを探していきたいと考えています。(担当：M)



次号にしとも広場23号は、2024年9月発行予定です。お楽しみに！

“にしとも広場”ってどんなところ？

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。



にしとも広場ホームページ



にしく市民活動支援センター
にしとも広場



管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま

TEL/FAX：045-620-6624

Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

ホームページ <https://nishitomo-city-yokohama.jp/>

住 所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階

開館時間 9:00～17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29～1/3)

アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分

